

富士見市防災環境カルテ

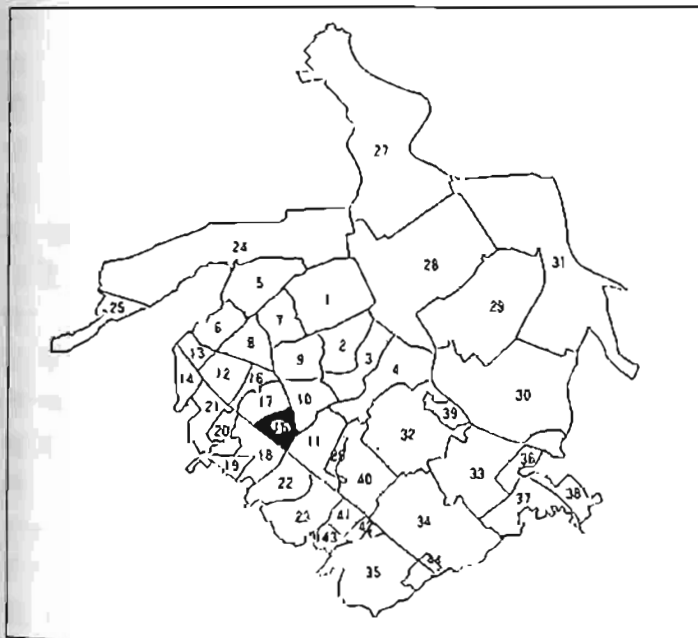
鶴瀬東1丁目町会

位置番号 15

概況

鶴瀬東1丁目町会は、富士見市の西部に位置し、権平川に沿って東から南北方向に向って侵入する浅い谷（浸食凹地）とその浅い谷で3等分された台地（台地段丘）で形成されている。町会を囲むように、東側に県道大井・朝霞線、西側に東武東上線、南側に県道三芳・富士見線、北側に鶴瀬停車場線が通っている。東武東上線には鶴瀬駅があり、富士見市の交通の要となり、浅い谷は盛土されて住宅地となっている。鶴瀬駅東口周辺（台地）には、鶴瀬駅舎、第一勧業銀行、篠田中央病院などの業務施設、東武ストアーなどの商業施設、そして商店街があり、商業地特有の賑わいをみせている。水害は、かつては権平川沿いでみられたが河川改修によりほとんどなくなった。一部駅前通り沿いで集中豪雨時に排水しきれない雨水により、道路冠水や店舗の床面への浸水がみられる。地震災害は、木造建物密集地で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。

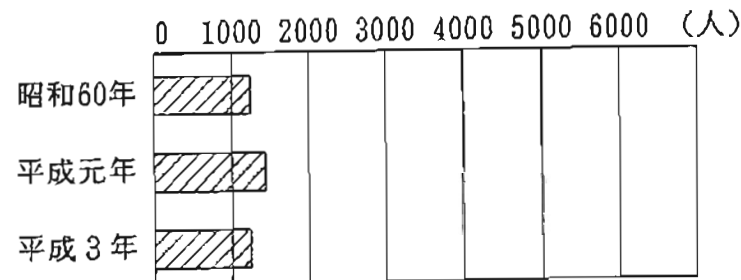
位置図



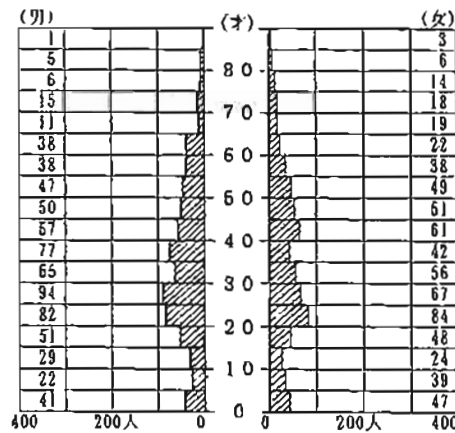
1. 基礎指標

・面積	0.123 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	735人
女	686人
計	1,421人
・人口密度	11,552.8人/km ²
・寝たきり老人数	1人
・ひとり暮らし老人数	10人
・世帯数	604世帯

人口推移

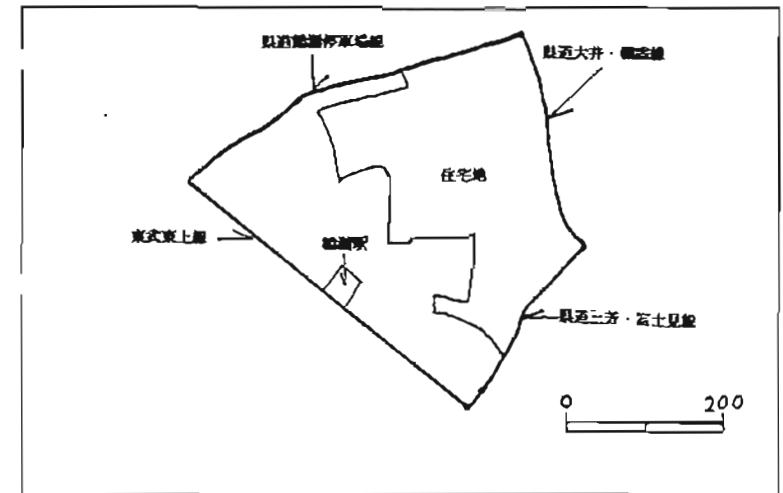


年齢別人口(平成3年)

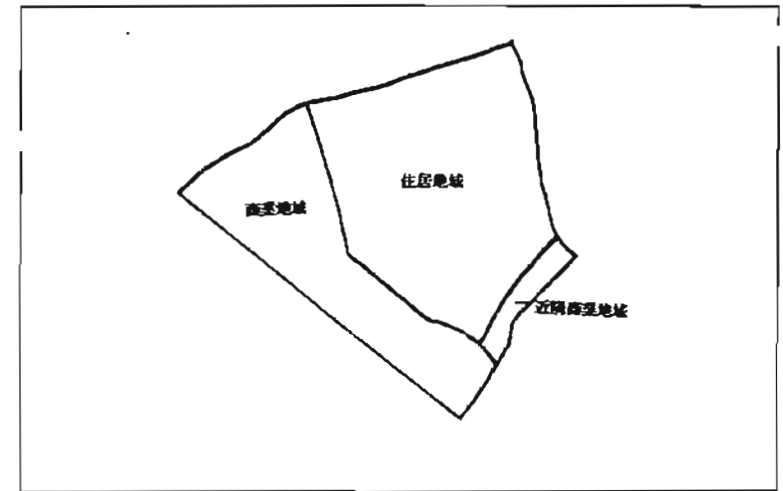


・商住工混在率住居系	79.0%
店舗系	16.2%
工業系	4.8%

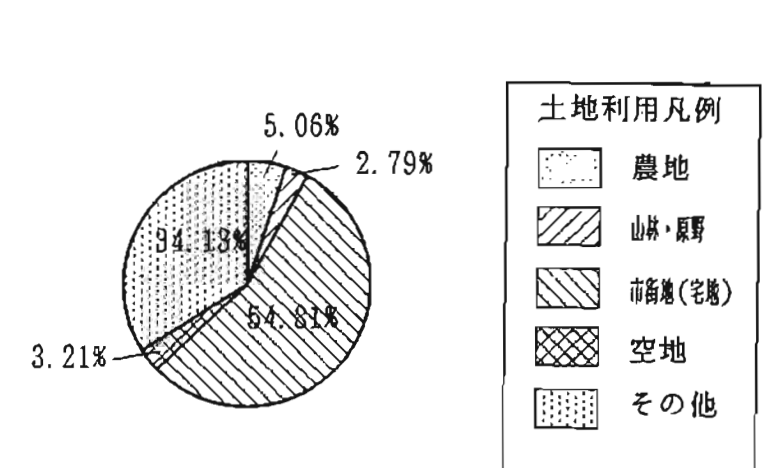
町会現況図



用途地域図



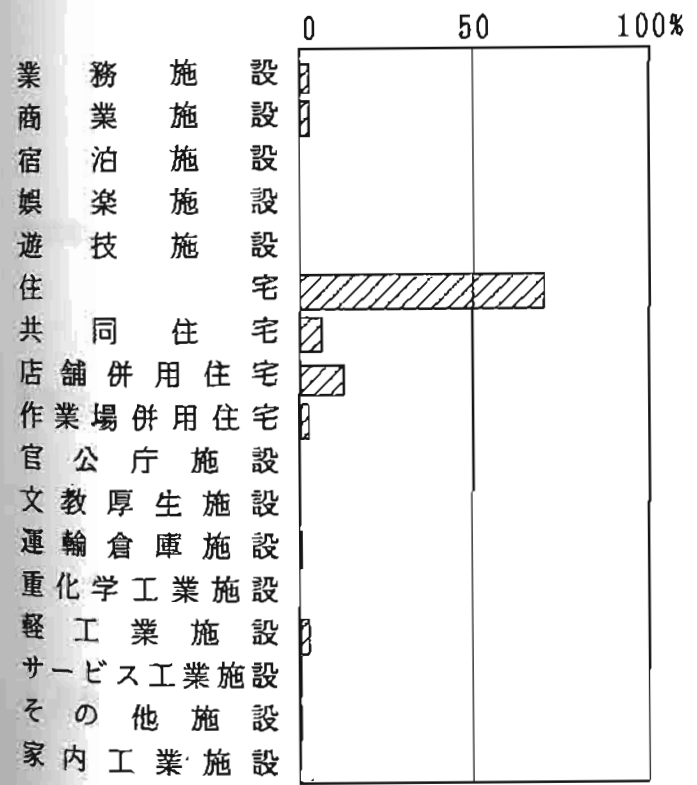
土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	492棟	
・木造建物	285棟	
・非木造建物	207棟	
・建物面積	30,705.88㎡	
・木造建物	14,868.90㎡	
・非木造建物	15,836.98㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	70.1%	
・木造率	57.9% (285棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	52棟	
・同上率	18.2%	
・建物階層別現況 (木造建物)		
1階	145棟	50.9%
2階以上	140棟	49.2%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	17本	138.2本/㎓
・幹線道路率	4本	32.5本/㎓
・公共空地面積	0㎡	
・公共空地率	0%	
・1人あたり公共空地	0㎡/人	
・公共空地内容 (*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 小学校	0㎡	
4. 公園	0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 所沢市、川越地区消防組合、 応援協定 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	6本
・1消火栓あたり世帯数	100.7世帯/本
・消防水利貯水施設数	5 (1) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	0

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	2か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和 年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
年 月 ()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)			0件
・火災出火件数 (年 ~ 年)			0件
・1923関東大地震被害			
家屋全壊			0戸
家屋半壊			0戸
被害率			0%

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	1か所	篠田中央病院
医院	6か所	尾谷耳鼻咽喉科医院, 平田産婦人科, 小川歯科, 池田クリニック, 竹内歯科, つるせ歯科, 冢田整形外科, 皮膚科クリニック
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

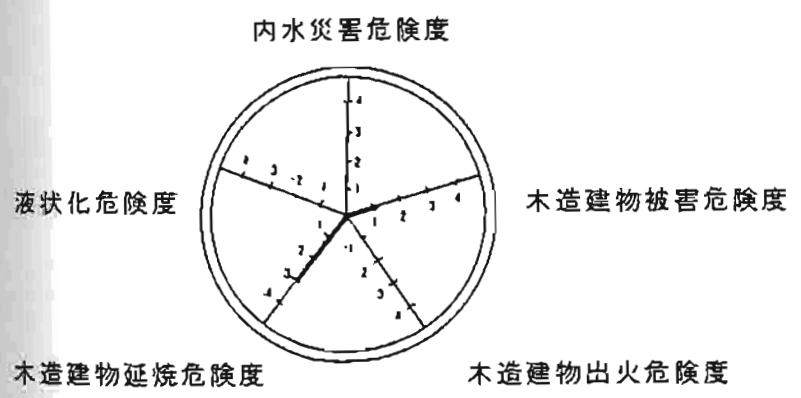
8. 危険度評価

・内水災害危険度	0ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	0ランク
・木造建物延焼危険度	3ランク

地盤	地盤の地震動危険度	浅い谷	2	台地	1ランク
危険度	液状化危険度	"	1	"	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



9. 地盤条件

地盤は、鶴瀬駅東口付近、県道鶴瀬停車場線と県道大井・朝霞線の交差点付近、県道三芳・富士見線の西側沿いの台地では硬く、鶴瀬東1丁目2番地～3番地内の権平川沿い、5番地～6番地内の浅い谷では比較的軟らかい。台地部で震度5(+) (強震の強い方)、浅い谷で震度6(-) (烈震の弱い方) の地震が予想される。

10. 問題点の整理

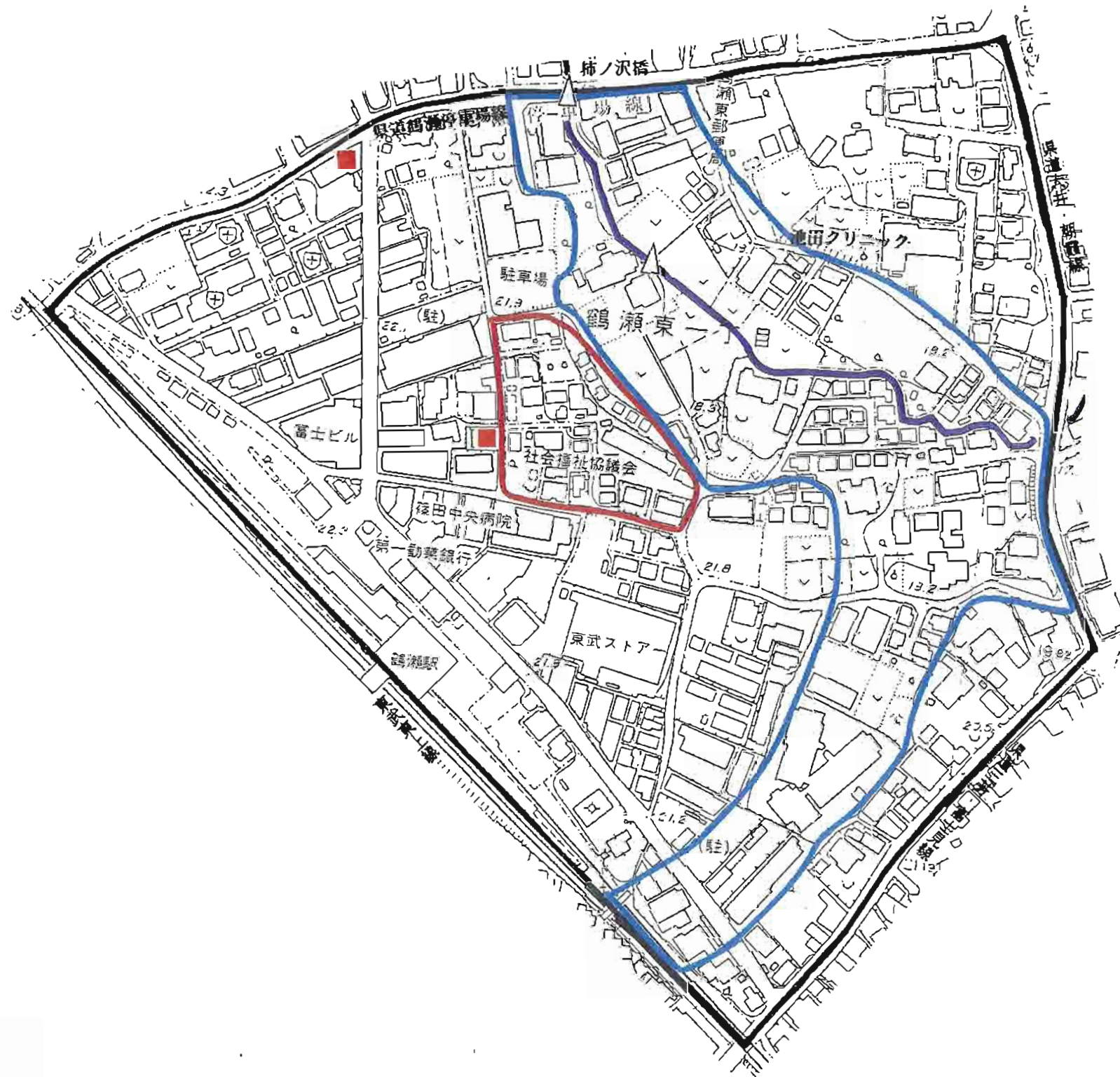
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	少ない。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	無い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	台地では地盤条件が良いので倒壊の危険性は低い。しかし、権平川沿いの古い木造建物は倒壊の恐れがあるため注意を要する。	3. 消防能力	世帯数と比較して消火栓数が少ない。
4. 出火危険	出火の危険性は低い。	4. 防火能力	鶴瀬駅東口の商業地は不燃化が促進されているので防火能力は高い。木造建物密集地域の防火能力は低い。
5. 延焼危険	不燃領域率が50%～70%と見込まれるため木造家屋密集地域で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想される。	5. 避難収容力	町会内には指定避難所がため富士見台中学校(諏訪2丁目町会)を共用するが、収容力は低い。
6. その他の災害	無い。		

11. 解決の方向性

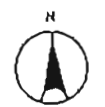
権平川沿いの木造建物密集地で火災が発生した場合、延焼の危険性がやや高いと予想されるので、この地域の消火栓の増設が望まれる。避難可能な道路沿い(鶴瀬駅東口商店街を通過する)では、商業施設の広告塔、看板の落下により幅員の広い道路を狭隘化する危険性が予想されるので、これら狭隘化の予防対策が望まれる。

※ 想定震度 台地5(+) (強震(強))
 浅い谷6(-) (烈震(弱))

防災現況図A(災害発生要因)



凡 例	
●	給油取扱所
■	一般取扱所
⚠	危険物屋内タンク貯蔵所
⚠	危険物屋外タンク貯蔵所
⚠	危険物地下タンク貯蔵所
▲	L P G 充 填 所
△	橋 梁
▽	横断歩道橋
△	立 体 交 差
■	木造家屋密集地域
—	河川・水面
⚠	急傾斜地崩壊危険区域
■	盛 土
■	浅い谷・低地(谷底平野)
既往浸水域(平成3年台風18号)	
■	田の浸水域
■	田の被害区域
■	畑の被害区域
■	床上浸水域
■	床下浸水域



防災現況図B (災害抑止要因)



凡 例	
	消防署・出張所
	消防団機械器具置場
	水防施設
	防火水槽・プール
	警察署・派出所・駐在所
	市役所・出張所・公民館
	防災行政用無線子局位置
	コミュニティ・集会施設
	保健所・保健センター
	病 院
	医 院
	休日診療所
	指定避難所
	公 園
	河川・水面
	避難可能な道路
	幅員12m以上の道路
	幅員12m以上の道路 (計画中)
	学 校 (小・中・高)
	空地・水田・畑

